

## 地域振興施設における導入機能の検討

### 1 先行事例に見る道の駅の機能

#### 1.1 導入機能に関するヒアリング結果の整理

##### (1) 視察先に導入されていた機能

導入機能 ( ) 内数値は久万高原町の面積	概 要
トイレ (約 122 m <sup>2</sup> )	幼児のおむつかえやオストメイト等幅広いニーズに対応。 (災害時でも自家発電により使用可能)
情報提供施設 (約 58 m <sup>2</sup> )	相談員を配置 (9 時～17 時) すると共に、タブレットや大型モニターによって、道路交通、気象、災害、観光等の情報提供。
交流サロン (約 133 m <sup>2</sup> )	情報提供施設に併設 (2 階)。都市住民と町民の各種交流活動や久万高原町をテーマにしたギャラリーとして活用されている。
管理事務所 (約 43 m <sup>2</sup> )	施設全体の運営管理を行うための事務室。
農産物直売所 (全体約 329 m <sup>2</sup> /売場面積: 約 252 m <sup>2</sup> )	集客の目玉施設であり、その地域ならではの農産物、加工品、特産品等を販売。 生鮮三品の取り扱いで地元客の日常利用を促す。
レストラン (約 260 m <sup>2</sup> )	地場産の食材をふんだんに使い、道の駅の集客力向上と夏秋野菜の PR に貢献する。また、直売所で売れ残った商品を流用することで、安価な仕入れと処分される食材を削減することが可能となる。
パン工房 (約 77 m <sup>2</sup> )	ドライバーが移動中に食べられる気軽さがあり、高い需要がある。レストランと異なり、席数制約もなく効率的な運営が可能で、道の駅の収益にアップに貢献している。
ファーストフード・自販機 (約 139 m <sup>2</sup> )	短時間の休憩場所として軽食コーナーの需要が高い。 軽食への対応として屋根のある場所へのベンチ設置は必須。
バックヤード	ごみ対策、倉庫増築エリアの確保は必須。
多目的広場	レクリエーションやイベントの会場として活用。
農業・商工・料理体験施設	1 年を通じてイベントを実施できる仕組みづくりが重要。
防災施設 (約 238 m <sup>2</sup> )	近年、震災や災害時に備えた機能整備への期待が高い。

##### (2) 視察先には未導入で必要と考えられる機能(ヒアリングでの助言)

導入機能	概 要
子供の遊具	親の買物中に時間を費やせる遊具等の設置要望が多い
EV 充電器	災害時対策としても有効であり設置の要望もある。
屋根付きベンチ・休憩所	利便性への配慮から雨天時も利用可能な休憩機能は必要
足湯・温浴施設	利用者からの要望も高く集客も見込める

## 2 当該地域振興施設の導入機能(案)

今回計画する地域振興施設の導入機能として、以下のようなものが挙げられる。

### ■休憩機能・防災機能

導入機能	導入施設イメージ	想定規模
トイレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔で利便性が高く、気軽に立ち寄りたくなるトイレ</li> <li>・バリアフリー対応に加え、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすいトイレを整備</li> </ul>	男(小) : 10 男(大) : 3 女 : 10 身障者 : 1
	規模設定の考え方	一般道路の休憩施設計画要領(案) / 四国地方整備局より駐車台数に応じて便器数算定
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元および観光客の利用を想定した駐車場を整備</li> </ul>	乗用車 : 55 台 大型車 : 8 台
	規模設定の考え方	サービスエリア相当として前面道路(徳島南環状線)の計画交通量より算定
管理施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域振興拠点を管理・運営するための施設</li> </ul>	事務室、会議室、倉庫等
	規模設定の考え方	管理運営を行うための規模を検討し算定
防災拠点施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時における救援物資等の中継基地、救援部隊の活動拠点</li> <li>・災害時の帰宅困難者および道路利用者の一時避難施設</li> </ul>	
	規模設定の考え方	久万高原町の事例を参考に同等規模を確保

### ■情報発信機能

導入機能	導入施設イメージ	想定規模
地域情報発信センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国府の観光地(周辺施設、地域のイベント)の情報が紹介されているガイド・パンフレットの設置やCATVでの放映</li> <li>・近隣の地域のお遍路情報の提供</li> <li>・地域の紹介や地元団体・サークルの作品等の展示スペース</li> <li>・地元で評判の食べ物や衣類等の商品販売、また地域の情報発信等におけるインターネットの活用(WiFi機能の導入等)</li> <li>・お土産コンシェルジュや観光ガイド等利用者のニーズに合わせた観光案内</li> </ul>	
	規模設定の考え方	久万高原町の事例を参考に同等規模を確保
周辺施設への周遊促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客や都市住民向けに地域周遊を促進するためのレンタサイクルを提供</li> </ul>	
	規模設定の考え方	利用客数やレンタサイクル施設整備を検討し算定 阿波踊り会館の事例を参考に同等規模を確保

■地域の連携機能

導入機能	導入施設イメージ	想定規模
交流広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が地域の方々の暮らしに触れることができる空間</li> <li>・緑豊かな田園・農地や寺社林など国府の特徴ある風景を味わう場所</li> <li>・地元の団体、サークル、小・中学生の発表の場</li> </ul>	
	規模設定の考え方 集客施設面積（産直・特産物販、飲食、加工施設）にイベントによる利用客数の増加を見込み算定	約 2,000 m <sup>2</sup>
地元食材の飲食施設（レストラン）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元農産物を使用した農家料理を提供する農家レストラン</li> <li>・産地直売所等との連携により、地産地消を推進しつつ、できるだけ農作物を処分しない仕組みを作る</li> </ul>	
	規模設定の考え方 久万高原町の事例を参考に同等規模を確保	約 300 m <sup>2</sup>
産地直売所・特産物販売施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特産品や新鮮な食材、また加工工場・共同作業所等で製造された製品などの品数をそろえた施設</li> <li>・朝市や夕市を開催するための施設（野菜等農作物の販売施設）</li> <li>・軽食等の販売施設</li> </ul>	当初：450 m <sup>2</sup> + 将来：200 m <sup>2</sup>
	規模設定の考え方 出荷農家数、および前面道路の計画交通量を参考に立寄率、滞留時間および売り場人口密度（建築資料集成）等を考慮して算定	約 650 m <sup>2</sup>
地場産センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産品の普及を目的とした施設</li> <li>・イベント時の展示スペースとしての利用も視野に入れる</li> </ul>	
	規模設定の考え方 イベント等のスペースを考慮	約 300 m <sup>2</sup>
農業支援研修室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農作物の生産、品質に関する会員研修等をはじめ、出荷や梱包等に関する研修などを行う施設</li> </ul>	
	規模設定の考え方 研修・会議等に必要となる規模を検討し算定	約 100 m <sup>2</sup>
新たな商品開発（加工施設）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで地域になかった新たな徳島ブランドとなりうる加工品（地域振興拠点で販売）を製造するための施設</li> </ul>	
	規模設定の考え方 加工品製造に必要となる規模を検討し算定	約 150 m <sup>2</sup>

### 3 規模算定の考え方(参考)

#### 3.1 計画交通量の設定

(1) 現在交通量=22年交通センサス(徳島市国府町矢野:24時間交通量)による交通量

表. H22年交通センサス(徳島市国府町矢野)

	小型車(台)	大型車(台)	合計(台)
昼間12時間	6,139	537	6,676
24時間 (割合)	8,177 (92%)	702 (8%)	8,879 (100%)

(2) 将来交通量=徳島南環状道路 全線供用時の本線交通量

国土交通省が整備する徳島南環状道路(高架道路)の出入口が、国府町延命付近に計画されており、全線共用時の本線交通量は以下のように設定されている。

<徳島南環状道路 全線供用時の本線交通量>

- ① R192~観音寺IC 20,000台
- ② 観音寺IC~国府IC 30,400台
- ③ 国府IC~僧津山IC 29,100台



### 3.2 駐車台数の算出

#### (1) 道の駅として最低限必要な駐車台数の設定

道の駅として最低限必要となる駐車台数の算定については、「一般道路の休憩施設計画要領（案）／平成9年（四国地方建設局）」に準拠する。

本計画においては、H22年交通センサス（徳島市国府町矢野：24時間交通量）の交通量を用いて駐車台数を設定する。

#### ◆「一般道路の休憩施設計画要領（案）」による駐車台数

計画交通量	小型車	大型車	合計
8,879 台／日	36 台	5 台	41 台

#### (2) 産地直売所やレストラン等の集客施設を加味した駐車台数の設定

「一般道路の休憩施設計画要領（案）」による駐車台数の中には、トイレや休憩施設の利用者を対象とした駐車台数は含まれているが、産地直売所やレストランなどの集客施設の利用を考慮した駐車台数は加味されていないことから、道の駅における集客施設利用分の割り増しを行うものとする。

JAF（社団法人 日本自動車連盟）による道の駅に関するアンケート結果によると、道の駅を利用される一番の目的として、「食事・買物」「その道の駅にしかない施設の利用」という回答が 51.7%を占めている。当然、食事や買物目当てで道の駅を訪れる方も、休憩やトイレを利用するものと考えられるため、道の駅利用者の約半数が集客施設目的で道の駅を訪れるものと判断できる。

そこで、今回の計画では、集客施設利用者分の駐車台数の割り増しとして、JAF のアンケート結果の数値を参考に 51.7%の割り増しを行うものとする。

(2) 「道の駅」を利用される一番の目的は何ですか？

- ①休憩・トイレ
- ②食事・買物
- ③その「道の駅」にしかない施設の利用（入浴・体験等）
- ④その他

[回答]

項目	回答数	構成比
休憩・トイレ	12,026	44.9%
食事・買物	12,328	46.0%
その「道の駅」にしかない施設の利用（入浴・体験等）	1,529	5.7%
その他	921	3.4%
合計	26,804	100.0%

出典：JAF 道の駅に関するアンケート結果

#### ◆集客施設利用者分を割り増した駐車台数（＝道の駅に必要な駐車台数）

小型車	大型車	合計
$36 \times 1.517 = 54.61$	$5 \times 1.517 = 7.59$	$55 + 8 = 63$
55 台	8 台	63 台

### (3) 将来的に必要な可能性のある駐車台数(高速道路 SA 相当の駐車台数)

徳島南環状道路が全線供用された際の計画交通量は観音寺 IC～国府 IC 間で 30,400 台となっており、これに応じた駐車台数を将来的に必要な駐車台数として試算する。

駐車台数の試算においては、高速道路のサービスエリア (SA) の駐車台数算定の基準である西日本高速道路 (株) 「設計要領 (第四集)」による算式を用いて試算する。

ただし、本試算で求められる駐車台数は、当該道の駅の利用用途を高速道路の SA 相当と想定した場合の参考値であり、実際に徳島南環状道路に SA を設けるわけではない。

#### ◆ 「設計要領 (第四集)」による駐車台数 (将来計画)

計画交通量	小型車	大型車	合計
30,400 台/日	143 台	26 台	169 台

## 3.3 トイレの規模算出

### (1) 必要便器数の算定

トイレ規模 (必要便器数) の算定についても、駐車台数の算定同様、「一般道路の休憩施設計画要領 (案)」の基準に準拠する。

#### ◆ 「一般道路の休憩施設計画要領 (案)」による必要便器数

	男 (小)	男 (大)	女	身障者
便器数	10	3	10	1
合計	24			

### (2) 同規模のトイレ事例

道の駅「日和佐」の駐車台数は乗用車  $57+3=60$  台、大型車 7 台となっており、今回計画する地域振興施設とほぼ同規模の駐車台数となっている。

便器数は男子 (小) 10、男子 (大) 3、女子 12、女子トイレ内男児用 1、多目的 2 であり、下屋部分を含む施設面積は約 210 m<sup>2</sup> (トイレ部分は約 150 m<sup>2</sup>) となっている。

